

V-High帯域の利活用に係る実証実験の実施状況

資料15-2-1

- V-High帯域(207.5～222MHz)の利用について、これまでに3回の提案募集を実施。
- 提案者のうち以下の6者が、実証実験を実施又は計画。

提案者名	区分	提案概要
① IPDCフォーラム	放送	放送電波を用いて、IoT機器を対象に、IPデータを一斉同報配信するシステム。 自治体等によって地域向けの情報配信を目的として使用されることを期待。
② 東京ワンセグ放送(株)	放送	リアルタイム型放送やダウンロード(蓄積)型放送、デジタルサイネージ等のコンテンツ配信サービスを実施するほか、IPデータの一斉同報配信を利用した物流効率化事業を想定。
③ (株)日立国際電気	通信	公共・公益分野の利用者に対し、映像や災害情報等を伝送可能とする共同利用型のM2M/IoT無線プラットフォームを提供。
④ ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)	放送	放送波を活用して、多数のIoT端末に同時にデータを送信するシステム。
⑤ 広島市立大学、日本無線(株)	通信	海上と陸上間の200MHz帯LTE無線通信システム。 医療・ヘルスケアIoT用途の通信基盤、離島居住高齢者への医療・健康支援、災害時の船舶を活用した通信インフラを構築する。
⑥ 大阪大学、NICT、(株)スペースタイムエンジニアリング、日本無線(株)、明治大学、立命館大学	通信	災害対応IoT通信システム(DR-IoT)。 公共BBと周波数共用し、広帯域通信が必要な拠点(都道府県等)間通信には公共BBを利用し、多点情報共有には端末を比較的安価に製造可能な本システム(DR-IoT)を利用